

建築士講座

科目

2024年 一級建築士 学科
新体系テキスト【施工】正誤表 (訂正版)

日頃より弊社書籍をご利用くださりましてありがとうございます。

上記書籍において誤植がありましたので、本書は下記をご確認の上、訂正してお使いいただきますようお願い申し上げます。ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

2024年6月 (6月20日更新版)

TAC 建築士講座

頁	誤	正
施工テキスト P251 29行目	表中、「ボルトの径 16 mm以上」の「ボルト径に加える大きさ (mm) 」 1.6	表中、「ボルトの径 16 mm以上」の「ボルト径に加える大きさ (mm) 」 2.0 ----- (注意) 6/6に「TAC 専門学校向けサービス」Webサイトで掲載しましたP251の正誤表で、一度「1.5」に訂正したものを再度「2.0」に訂正します。誠に申し訳ありません。 (補足) ボルトの径が 16 mm以上の場合、 ・木部にあける孔径は ボルト径 + 2.0 mm以下 ・接合金物にあける孔径は ボルト径 + 1.5 mm以下 です。
施工テキスト P405 13行目 図及び右欄	6/6に「TAC 専門学校向けサービス」Webサイトで掲載しましたテキスト P405 の正誤ですが、誤りではございませんでした。誤った正誤表を発行してしまったこととお詫び申し上げます。 お手数をおかけして誠に申し訳ございませんが、訂正前(テキストに印刷されている内容)をそのままご利用頂きますようお願いいたします。 また、当該正誤表との関係性について補足説明を加えたものを作成しましたので、 テキスト P405 の学習時は、裏面の『※1 テキスト P405 の 13 行目に関する補足』と合わせてご利用をお願いいたします。 ----- (注意) 上記内容に関わる問題集の出題に次の 2 つがありますが、いずれも問題・解説に訂正はありません。下記問題集をお持ちの方は裏面の『※1 テキスト P405 の 13 行目に関する補足』の【補足】③をご参考ください。 ・施工 項目別問題集 P313 No.951 ・施工 年度別問題集 P128 令和元年 No.22 肢 4	
施工テキスト P445	「付録 6. ボルトの孔径」の表中、「木工事」の「 $d \geq 16$ mm」の「孔径 (孔あけ加工) 」 $d + 1.5$ mm以下	「付録 6. ボルトの孔径」の表中、「木工事」の「 $d \geq 16$ mm」の「孔径 (孔あけ加工) 」 $d + 2.0$ mm以下

裏面もございますのでご確認をお願いいたします。

※1 テキスト P405 の 13 行目に関する補足

溶接金網を用いる補強

溶接閉鎖フープを用いる補強

溶接金網の重ね継手長さは
1節半以上、かつ150mm
以上とする。

① 公共建築改修工事標準仕様書による規定

溶接金網を用いる補強

② 建築改修工事監理指針に紹介されている通常の例

【補足】 溶接金網を用いる補強における溶接金網の重ね継手の長さについて

① 「公共建築改修工事標準仕様書」では、「1節半以上、かつ150mm以上」と規定している。「1節半」とは縦筋の間隔の1.5倍という意味である。

② ①の標準仕様書の解説書に当たる「建築改修工事監理指針」では、通常の場合として「通常の継手長さは、最外端の縦筋間隔に100mmを加えた長さ以上、かつ、200mm以上としている。」と紹介している。

③ したがって、試験では①、②のどちらかで出題されても正しい。なお、令和元年No.22肢4では「溶接金網の縦筋の間隔が100mmであったので、その継手長さを200mmとした。(正)」で出題されている。

下記は6/6に「TAC 専門学校向けサービス」Webサイトで掲載しました正誤です。

「×」の箇所が誤った正誤部分となります。

頁	誤	正
施工テキスト P251 29行目	表中、「ボルトの径 16 mm以上」の「ボルト径に加える大きさ (mm)」 1.6	表中、「ボルトの径 16 mm以上」の「ボルト径に加える大きさ (mm)」 1.5
施工テキスト P405 13行目 図及び右欄	「溶接金網を用いる補強」の図を差し替えてください。右図を切り貼りしてお使いください。 また、右欄の 「 溶接金網の重ね継手長さは1節半以上、かつ150mm以上とする。」 を削除してください。	<p>溶接金網を用いる補強</p>

この度はテキストの同ページにて2度目の訂正を出してしまい誠に申し訳ございません。

皆さまにはご迷惑をお掛けしましたことを、重ね重ねお詫び申し上げます。

表面もございますので、ご確認をお願いいたします。